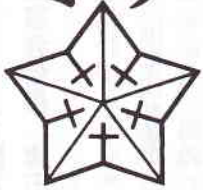


大井第一小学校



同窓会会報11号

大井第一小学校同窓会 発行責任者 津田 照通 2009年4月



第一回
ホームカミングデー
会場風景・展示品
2008年10月19日(日)

▶昭和二十五年頃まで使われていた合図用の鐘



◀校旗(昭和二十五年作製)

第二回ホームカミングデー開催

懐かしい「大井第一小学校」
に集まろう

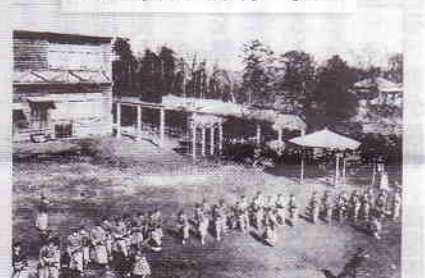
鹿嶋神社祭礼の日

10月18日(日) 11時~15時

プール脇にあったヒマラヤ杉



大正時代の体育の授業



九年ぶりに戻ってきて

副校長 立石 敬三

平成二十年四月、九年ぶりに副校長として本校に戻ってまいりました。

十月には初めてのホームカミングデーが開かれ、私も微力ながらお手伝いをさせていただきました。懐かしいお顔があり、私の教え子たちにも出会うことができ、心温まるひとときを過ごすことができました。ありがとうございました。

さて、本校も九年前とはずいぶん様変わりをしました。教職員の異動はもちろんのこと、在籍児童の増加、さまざまなスクールの立ち上がり、近隣の小中一貫校開校など、大きな変化が見られました。また、学校に寄せられる保護者の皆様のお声も九年前に比べて多岐にわたるようになってきています。

しかしタブの木のもとに集う明るく元気な子どもたち、その子どもたちを支え見守っていたらいたる同窓会、町会の皆様、菊作りに励んでいただいている皆様など、皆様の本校への熱い想いは何一つ変わっていない、いやますます期待が高まっていることを実感しています。

時代がどのように変わろうとも、学校での教育が教室から始まることに変わりはありません。私自身、ときどき授業に携わることもあります。何より教職員の力を結集し、大井第一小学校の教育発展のために日々努めています。今後ともよろしくお願いいたします。

第一回ホームカミングデー

を開催して

同窓会会長 津田 照通

懸案であったホームカミングデーは鹿嶋神社例大祭(毎年10月第三日曜日)に併せて開催しました。初めてのイベントなのでその内容の検討に苦勞しました。

PRについては、毎年4月に配布する同窓会会報(第10号)に掲載し、開催1ヶ月前には、地元各町会の掲示板をお借りしてポスターを貼りました。

会場については、1階の多目的室を借り、展示用のパネルやテーブルでレイアウトし、会話の出来るコーナーも設けました。

展示物については、倉庫から古い貴重な資料を探し出し説明文も付けました。

校門には大看板を設置し、その脇には興味ある写真も展示しました。

11時から15時までの短い時間ではありましたが、200人近い来場者が記録されています。

特にこの日を利用したクラス会も数組あり、この会場を待合せの場所として利用された方々も見受けられました。

アンケートによれば「毎年続けて欲しい」「もつと多くの資料を見たい」とのご希望が多く、出来れば同窓生の皆様からお手持ちの資料を提供して頂ければ幸いです。

第2回は10月の第三日曜日(10月18

日)に行います。出来れば3階の体育館を借りて、簡単なクラス会の出来るコーナーを用意したり、また、このステージを利用して地元の方々が趣味の芸能を発表出来る「ミニ・文化祭」的な企画も検討して居り、既にこの企画に参加したいと云うグループもあります。(例:コーラス・三味線・ウクレレ等の発表会・手芸の展示等々)。
ご希望の方は事務局まで早めにご連絡下さい。

暗黙知を学ぶ

箱根林間学園での危機管理を通して

元校長 栗田 敦子

平成三年八月二十日、雨の朝、五年生百二十二名の箱根林間学園は始まった。雨さえ止んでくれればと願っての出発であったが雨脚は強く、彫刻の森での昼食時には土砂降りになっていった。遠足であれば延期も可能だが、品川区教育委員会学務課の担当の下、全区的な日程では動かしようがない。児童は少々ぬれてもお構いなしの元気いっぱいの行動であったが、昼食後、再びバスに乗り込む時は、教員の注意事項が指示されていた。

土砂降りの中、箱根学園の宿舎に到着した。バスが敷地に入れるよう、坂にある門は広く開けられていた。雨水はすでに山の上から坂道や敷地へと流れ込んでいた。傾斜地に建てられている学園の玄関は表側から見ると一階に当たるが、裏の庭側から見ると二階に

当たる。玄関の階下には食堂、風呂場等がある。

到着後、慌ただしくはあったが管理人の方々も一緒に開園式を行い、すぐに児童を各部屋へ移動させた。その直後である。閉めた玄関ドアの下から泥水がたたき流れ込み、みるみるうちに式を行ったホールを浸した。

この段階で、私は学務課に一報を入れた。その際、児童の教育活動を担当する指導課へ伝言を依頼しようかと考えたが、現場を見てない一人一人が間に入れば、言葉のニュアンスが異なる場合も有り得ると考え、受話器を置くと同時に改めて指導課へ同様の報告をした。さらに、学校へは今野教頭先生(当時)に直接電話をかけ、今後の私の連絡をその都度模造紙に書いて掲示し、それを教職員が全て目を通し現況を把握できるように依頼した。いつの場合も、事実と判断とを区別して伝えた。

学校は児童の教育のためである。質のよい教育を提供し、安心・安全な場であること、そのための状況判断と決断を行う、これが私の学校経営に対する持論である。また、事故に対しては、事態の最悪を想定し、そうさせないためのいくつかの段階に分け、初期段階に最大の神経を使うことに徹するよう心掛けていた。

箱根地方全体を襲った台風で私の持論は励起され、学校経営者としての能力を試されているようでもあった。

私のくるぶしまで上がった泥水は、食堂のある階下への階段を幅いっぱい流れ下っている。すかさず学級担任

には児童の掌握を頼み、担任以外の教員と共に流入する泥水と格闘した。「さあ、美容体操のつもりで泥水を流そう」とモップで泥水の排水に取り掛かると、教員が驚いたように私の顔を見た。この事態になんと不謹慎なという意味かも知れないし、「校長がやるんじゃあ…」だったかも知れない。

しかし、責任者というものの、困難な事態に直面している時こそ外見は平然とし明るく振舞うことである。それでいて頭の中は、最悪の事態を招かないためにと手順と方法を考えている。区長・都知事・国へのルートまで想定したので覚えている。

他方、事態の変化をカメラに収めるよう教員に指示した。泥水の侵入、水位、残っている泥、天井から落下する泥水等々、客観的事実の記録を残した。さらに、管理人に、泥水が門から流入するのを少しでも減らすための土嚢の入手を依頼したところ、車で取りに行くというので、若い体力のある教員に同行してもらった。ところが、予定の時刻になっても戻らず、一瞬、二次避難が頭をかすめた。「妻子の顔がよぎった」といつて戻ってきた教員の話で、川があちこちでせき止められ決壊しているとのこと、樹木が倒壊し道路をおさいでいるなど宿舎周辺の状況を知った。そのとき持ち帰った土嚢はわずかではあったが、その労を労わずにはいられなかった。

食堂の天井から落ちる泥水が食卓や床を汚している。泥水はいたるところ

から宿舎内に入り込む。管理人が持つて帰ってきた土嚢を門に並べ、さらに建物の脇に水の逃げ道を作ってくれたことで流入量は減り始めた。しかし、宿舎内の泥はもはや私たちの手ではどうしようもなかった。

降り止まぬ雨に児童が不安を感じ始めた矢先、宿舎と地域一帯の電灯が一斉に消えた。児童の不安は増幅し、担任のそばに集まっている。いったん取り出した荷物を片付け始めている児童もいる。

停電は、単に部屋が暗くなったという事に留まらず、夕食の準備ができない、風呂が沸かせない、トイレの水が流せない、手が洗えないなど大きなダメージを意味している。

夕食の予定時刻は、とうに過ぎていく。各自持参のおやつを食べさせ、一時凌ぎをした。調理方法を切り替え、七時半頃、食事が階上に運び込まれた。停電のままである。各テーブルに蠟燭を立て、懐中電灯を照らしての食事であった。待ちに待った食事ではあったが不安感は去らず、ひたすら点灯するのを待ち望んだ。トイレ使用の水は風呂場の湯船からバケツで採った水を教員が運び入れた。

八時半過ぎに地域の殆どが停電から解放されたが、それから遅れること二十分ほどして宿舎の明りが一斉に灯った。その明るかったこと、児童の歓声が今でも聞こえる。

管理人に、宿舎を使用し続ける衛生上の安全確認を保健所に依頼してもらえないか尋ねたが、無理とのことであ

った。泥水が流れ込みどんな細菌が屋内や飲食物等に混入しているかわからない中に児童を留めて置いてよいのか、私の明朝帰校させようとの決断はこの時だった。

もう何回目の電話になっていただろうか、区・学校へ予定を切り上げ帰校する可能性について報告した。直ちに職員打ち合わせ会を行った。教員に相談するというよりは、校長として児童の安全確保を第一にする旨を伝え質問を受けた。雨が止めば、湿生花園へ行けないかとの意見があったが、川の決壊や倒木もある中を、安全が保証できないまま百二十名の児童を連れてゆくのは無謀すぎる旨の話をした。第一、宿舎内の安全すらおぼつかない。

現場にいるものとしての意思を決め、区に明朝全員帰校する旨を報告し、続いて学校へ同様に伝え、各家庭への連絡を依頼した。就寝前、児童を集め、明朝帰校することを知らせた。さすがに「いやだ」という児童はいなかった。災害はあつてはほしくないものだが、

時として絶好の指導の場にもなり得る。帰校に関しての直接の生活指導は担任等に委ね、私は自然の威力について直接児童全員に話をした。地球やその大気圏をつくる水は、人を始め生物の命を守る一方で、生物の命を奪う力を持つている、太陽のエネルギーはもとより、気象など人の力の及ばない自然現象がある。予定通り各行事を楽しく行えなかったことは残念であるが、その代わり自然の力のすごさ、電気の威力を痛感できたのは、貴重な体験で

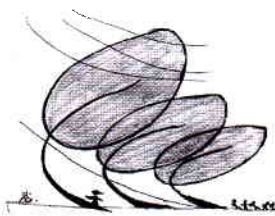
あること、したがって今回の林間学園での経験は一生役立てることができることなどを教えた。いつもならにぎやかな就寝前も、その夜は静かであった。

翌朝、小雨の降る中の帰校となった。学校に到着すると、保護者の方々と教職員の出迎えを受けた。私の手には、竹の棒があった。目ざとい立石先生（現副校長）から「全員無事でよかったですね、ところでその竹の棒は何ですか」と訊かれ、「あー、これで窓際の水の深さを測ってしるしをつけたのよ」などとの会話をしたことを覚えて

いる。翌日の新聞に、箱根の地元の男性が濁流に流され、死亡したとの記事があった。痛ましいことであった。私は、現地での写真と竹の棒を持ち、区の二つの課に報告を行った。

自然の中で生きる人間をはじめ全ての生き物は、環境の影響を受けずに生きていくことはできない。自然を体験して得られる暗黙知を増やし、教育によって得る知識の形式知とあいまって知恵のある人間として賢く生きたいものである。

危険はいつでも起り得る。常に危機管理を念頭に置き、危機に当たっては先ずは責任者が腹をくくることである。



—編集部からのお願い—
生徒の側からの《体験記》を書いてみま

せんか？この栗田先生寄稿文を読まれて、当時を思い出された（五年生児童）の方々も多いかと思えます。皆様の投稿をお待ちしております。
詳細は事務局までご連絡下さい。

学童疎開の先生から

旧教職員 S20、21年
昭和15年卒 佐藤二美子
(旧姓・竹内)

奥さん（友達の呼び名）、なつかしきオクよ。今、やつと子供達が寝たところですよ。今まで「お話、お話」とせがまれて、三つ程してあげたので、口がすっぱくなりました。

今日は、四年生にお裁縫（前かけ、エプロンとは言わない）を教えました。可愛いものね。出来上った子は、さっそくしめて、夜寝る時もしてるのよ。

午後から二年生を連れて、八坂神社という近所のお社にお散歩に行きました。そして、戦争のお話をしてやっただの。小さい子は小さいなりにとても憤慨して、仇をとるんだと一生懸命です。言う事はかわいいけど、とても真剣です。

遂に大東亜戦争は終結。子供達とラジオの前で泳え切れずに泣きました。子供達もしょんぼりしちゃって、だまって坐っているの。その日も午前中艦載機が来て、ずっと裏山の防空壕にいたのだけど、その高い崖を見ては、「これ登ったら日本勝つんなら死んだって登るわ。」「僕ね、れんげ食べても

いいから、日本勝つようにすんの」等と話したのでした。そして、矢張り家に帰らなかった子供達も、「いくらお母さんとこ行けても日本負けちゃうじや、いやだ。」大昌寺にみんなと一緒にいるの。」と、泣きべそです。

玉碎された方々、特攻隊の勇士。空襲の犠牲者、それよりも陛下のお心を思う時、浅野先生と二人で本当に胸がはりさけそうに泣いてしまったのでした。私達の力がおよばざりしたため、と思うと尚更です。子供達にも、よくよくわかり易いように話してやりました。この頃は、何かというアメリカににくい、しゃくだ、というような話になつてしまいます。「戦争のお話して」「新聞読んで」と、二年生の子さえ、とても悔しがっているのです。この子供達が大きくなった時、と思ひ、又、これからこの子供達が会うであろう苦難を思う時、いじらしくてたまらなくなります。家も出征している二人の兄はどうなるのか。姉も弟も失業でしょう。でも、これから、押さえつけられながら、新しい日本を建設して行かねばならぬ私達。今は、たえしのび、きつと、きつと仇をとりましようね。原子爆弾等を使う米英。天も許してはおかないでしょう。

つています。子供達はすっかりなついで、どこかへ行こうというのと、「先生の隣り、アラ、私だわ」：などとぶら下がって取りっこです。ではどうぞお大事にね。くれぐれもお元気で。又、会う日まで。お便りお待ちしています。さようなら。

☆佐藤二美子先生

若くて可愛らしい、お姉さんのような先生。あまりにも短い勤務期間だったので、殆どの方はご存知なかったでしょう。第10号の文で疎開地の生活では、母のような温かさを持っていられなかった事、又、終戦時の子供の様子がよくわかる第11号の文。先生のまわりにまつわりついていた子供も今は立派に成人して、先生のことを忘れていないでしょう。(編集委員)

心のふゆり、大井第一小学校

旧教職員 S 42〜51年

牧瀬 克英

私が大一小にお世話になったのは昭和42年度〜50年度までの9年間でした。赤池・海老根・武井校長先生の時代です。

最初に担任したのは3年生でした。6クラス編成で毎週、木曜日に開かれる学年会が教育活動の要でした。学校・学年行事に始まって各教科の進捗、教材研究、指導法と、それは綿密に行われました。今から思うと新採用2人を抱えた学年だったので、より丁

寧にやってくださったのかも知れませんが。職員会議は50名近くの大世帯で末席からは校長・教頭先生の顔が小さく見え、今、何について話し合われているのか聞き取るのに苦労しました。

中原・高梨・栢木・野村・上野・斉藤先生方は大先輩なのですが、学校行事等のうち上げの後、三つ又に在った「浅野屋」には、よく、連れていって貰いました。そして、教育については勿論のこと、人生について、いろいろ指導を受けました。

爾来26年間、山中小・月二小・豊海小・南綾瀬小・上千葉小・白鳥小・東柴又小と7校お世話になりましたが、私の小学校教育の原点は、常に大一小で学んだものでした。

時は巡り、父のように仁愛深く接して下さった赤池徳平校長先生、悠揚せまらぬ大人の風格の高梨先生、世話好きな久保田之先生も、今は鬼籍に入られ淋しい限りです。

平成14年度で退職し、家内と二人で先祖伝来の古い家とお墓を守って7年が過ぎたところです。最初の教え子達も50歳になったと賀状にあり、月日の経つ早さに只々、驚いています。校庭にこんもりと葉を茂らせた桐の大樹と赤レンガの旧校門。「集まり散じて、人は変われど、仰ぐは同じき理想の光」:

大井第一小学校が幾多の時代の変遷を経て多くの卒業生・旧教職員・保護者・地域の支えにより、益々発展されることを遙か南島より、祈つてやみません。

三十年

旧教職員 S 54〜63年

土田 利男

今年で教職三十年になります。現在、新潟県の真ん中に位置する、洋食器で有名な燕市の燕西小学校で五年生の担任をしています。

大井第一小学校は、三十年前の昭和五十四年四月に新卒で赴任しました。私の教職のスタートの学校です。勤めてきたそれぞれの学校に思い出がありますが、やはり大井第一はその中でも特別です。

最初の年に二年梅組を担当しました。大井第一はベテランの先生方が大勢いらつしやり、自分は若さで勝負とばかりに、歌を歌ったり、一緒に遊んだり、文集を作ったりと、そのようなことにエネルギーを注いでいたように思います。一年経つた三月に結婚しました。子供たちと保護者の皆さんから、心のこもった文集を頂きました。

二年目は、一年竹組を担当しました。大井第一の六年間に、一年生から六年生まで一年ずつ担任を持たせてもらいました。その後の私の教職生活の大きな力となりました。

三・四年目は、五・六年生を持ち上がりました。当時私が住んでいた横浜の青葉区まで、電車に乗って子供たちがよく遊びに来てくれました。家内も一緒に遊んで近頃の公園で遊んだり、お弁当を食べたりしました。長女が生まれる前の日にも、遊びに来ていま

た。
最後の二年間は、元気な三・四年生でした。七年目にシンガポール日本人学校に赴任したのですが、子供たちと保護者の皆さんから、お別れ会をして頂きました。

この原稿の依頼を頂いてから、文集やアルバムを見直してみました。当時の子供たち、保護者の皆さん、先生方の顔、そして懐かしい思い出がたくさん浮かんで来ました。

大井第一で学んだことや幸せだった思いを皆さんお一人一人に恩返しできないのですが、それを、今受け持っている子供たちに返していきたいと思っています。

『同窓生の想い出』

黒田先生

昭和16年卒 立木ゆり子

(旧高田)

教室に朝陽さんさん溢れ居て

紺の上着に白墨とばす先生

百歳を天寿と享けます師の面影

胸裡にしまえり若きの日の儘

先生は美人なのねと母にソツト

小学二年のわたくしでした



大井第一小学校…ある時代

その三

昭和22年卒 山上 伸也

「日野」②-1

学童疎開の苦しみは今更云うまでも無いが、集団の中で規律に縛られた生活はそれほど苦痛では無かった。弟とは六歳も離れており、一人っ子同様に育てられ、その上お祖母ちゃん子であり我がままな私には、そのような環境での生活はどうてい無理ではないかと家族は心配していた。初めて親元を離れ他人と寝起きをとにもする、いつ帰れるか期限無く、それが苦痛と感じられなかったのは、当時の軍部主導の児童教育にあつたと思う。辛くとも悲しくても命に関わる恐怖でも耐えなくてはいけない。そんな覚悟が幼い我々に出来ていたのだ、と思う。

日野の寮は、宝泉寺という日野駅を見上げる駅のすぐ傍のお寺であった。広い通りに面して家が疎らに並んでいる端っこ、裏は丘になっていた。

今父母の眠る高尾の霊園に年何回か行くとき必ず通るが、お寺の緑をのぞいて、家々で埋め尽くされ、まったく鄙びた面影は無くなっている。

着いて二・三日すぎた秋の気配がし始めた日、入浴をしていなかった私たち50人は、寺と反対側の駅前広場の噴水で水浴びをした。少々寒かった。駅を回りこんで甲州街道が山の切れ目までつづいて、遠くに奥多摩の山々がくつきり見えた。中でも雲取山が群を抜

いて高く、厳然として美しい姿をしていた。雲取山は今でも大好きで、一生忘れられない山である。

その後入浴は一度だけ近所の民家で頂いたが、私たちの虱だらけに懲りてしまったらしい。

もし私が反対の立場でもやはり断つてしまおう。そのあと何ヶ月かして、寺の裏手に佐藤先生がお風呂を作ってくれた。一年たち引越した豊田では、風呂へ入った記憶は無い。

日野で、二度目に入浴した(水浴びというんだらうと思うが)のは先に述べた噴水入浴の次のとき、暑い秋の日、日野と立川の間を流れる多摩川へ遠征し川原で遊んだ。ついでに裸になって体を洗った。それが先生の目的だった。

PTAことばじめ

昭和26年卒 平出 武

昭和二十四年にPTAが結成されたが、戦前の学校後援会との違いがよく分からなかった。

民主的に選ばなければならないという事で保護者に推せんをしてもらうのだが、保護者同士もあまり良く知らない。

結局、子供に「あなたの学級でよく勉強が出来るのはだれ？」と尋ねて、

その父親や、母親を推せんした。私は小学校の時だけは、よく勉強が出来たので、私の父が推せんされてPTAの役員になってしまった。

父は努力の人で、国有鉄道に一生を捧げ、国から勲章までもらったが、学歴もあまり無く、社会的地位も必ずしも高い方ではなかった。しかし、学校に関わる仕事の役員を仰せつかったことを非常に名誉に感じ、一生懸命にPTAの仕事をした。

まだ、その頃は校歌らしいものがないので、PTAの努力で校歌を作ろうと、作詞を北篠誠。作曲を服部正という大先生に頼みに何度もご自宅を訪ねた。

私が卒業する前に校歌が出来て、私は今でも「陽が昇る陽が昇る希望の丘に陽が昇る」という校歌を、一番だけなら暗唱して歌うことが出来る。

父は北篠誠という人がどういう人か、あまり知らなかったとみえて、歌詞の「あーあーわれらの大井第一」という所は「おーおー」の方が良いと言って、北篠誠に書き変えさせようとした。他の役員や、家族の皆に止められてようやく思い止まったのであった。

父は国鉄の大井町駅のそばの変電所の所轄管理を委されていたので、敷地に生えていた青桐の木を何本か学校へ寄附した。学校の大森寄りの敷地の道寄りに寄贈者の名札つきで植えてあったが、半世紀の才月を経て、その木はもう無い。父はPTAというものは学校に何かを寄附するものだと考えていたらしい。

校歌に合わせて踊った運動会

昭和26年卒 木村 久子

創立七十五周年を記念して、校歌が作られた。作詞は卒業生の北條誠先生、作曲は服部正先生だと知り、うれしかった。

運動会当日、四年生以上の女子全員が校歌に合わせて踊り、父兄にお披露目するのだという。二階から見ると、校章の星の形に見えるので、当日は二階が特等席だという。

星の形の中心。五人の一人に私が選ばれた。朝礼台を合わせた上で踊るので、誤って落ちてしまわないかと、目立つ所なので、間違えたらどうしようとか心配だった。更に五人だけはセーラー服を着る様にと指示された。それも各自、用意する様にと。

わが家にセーラー服はない。親を心配させたくない。考えあぐねた末、やつとの思いで母に話した。「困ったわねえ。家がないし。たった一日限りでしよう。」やっぱいいわなければ良かったと思つた。母は親せきの家に電話をかけてくれ、「見つかった。」と電話がかかって来たので、日曜日、母と二人で借りに行った。

運動会当日、「必ず来てね。」と母にいい、私が出る予定時間も告げた。その日は朝から緊張した。午後、踊り終えた時は、ほっとした。すぐ二階に行き母を探したが、見つからない。約束したのに、母が約束を破る訳がない。どこにいるのだろう。その時、ほうき

とちり取りを持っている母がいた。一瞬、声をかけるのをためらった。「お母さん、見てくれた？」と聞くのがやつとだった。「見ましたよ。」とひとこいいい、やや間をおいて、「ごみが落ちていたから、お掃除していたの。」と事も無げにそれだけいった。私は涙があふれて止まらなかった。運動会に来てお掃除をしていた母。「忙しいから帰るわね。」と言葉を残し帰っていた母。お友達に涙の私を見られたくなかったので、見送る事もしなかった。後悔先に立たずというのは、こういう事だと知らされた日だった。

『集団疎開の地を訪ねる会』を開催して

欣浄寺・平山寮

昭和21年卒 白旗 洋子
(旧姓・池田)

5月31日(土) 雨模様の中、午前9時30分、大井町駅中央改札口に集合。

企画した時は「何人集ってくれるだろう」と不安でしたが、



遠く仙台、水戸からかけつけてくれた人もいて、津田同窓会会長、森副会長の見送りを受け疎開地へと出発しました。当日キャンセルの方もいましたが、はるばる大垣から参加された方と新宿で合流、総勢14人、平山城址公園駅

(旧平山)へ……。

63年ぶりに会う人もいて、電車の中は、S19年、20年当時の色々な思い出や昔話で盛り上り乗り越しそうになる人も!

参加者の年長者は豊田学寮(男子生徒)の寮母さんだった白井さん。あとはS20・21・23・24・25年卒の皆さん。姉妹で疎開した人達のうち参加2組。

平山城址公園駅では、地元の歴史研究家の工藤さん(まだ若い、40代?)が車で迎えに来て下さり、雨も降っているのに、足が悪い人や一部の人が車に乗せてもらい、最初に思い出の地「鮫陵源」跡地(元料亭)へ。今はきれいな団地になっており殆ど昔の面影なし。

次に平山学寮(元安田氏別荘で、女子6年と3年の疎開地)へ。

浅川にかかっている平山橋のたもとにあった学寮は現在は住宅地になっていたが、橋からの眺めは懐かしく、その辺りの鳥居があったあずま屋でコックリさん(その当時子供達に流行した占い?)をしたこともあった。

平山橋を渡って毎朝洗顔しに行つた、とか思い出は尽きませんでした。

S20年8月2日の空襲で、平山橋を渡って逃げた丘陵は、住宅がびっしりと建っていた。

次に男子寮の豊田学寮(善生寺の一部で豊田分教場の跡)へ。

お寺はすっかりきれいになっており、寮母さんと今回訪ねた男子生徒4人が、昔の話を少しは知っていたお寺

の奥さんにお茶とお菓子で歓待され、懐かしそうに話していました。

それから日野駅へ出て、昼食後は八王子の龍光寺(男子寮)。8月2日の空襲で焼け出されたが現在は立派に再建。へ行く組と、日野の新撰組ゆかりの三つの寺、宝泉寺(男子寮) 大昌寺(女子寮) 欣浄寺(女子寮)へ行く組とに別れました。宝泉寺はすっかりきれいになっており、大昌寺、欣浄寺の本堂も修復されましたが、昔を偲ぶ物も数多く見受けられました。

参加された方々はそれぞれ色々な思いがあったでしょう。60年前の貴重な経験、疎開や戦争の苦しみ、厳しさ、を改めてしみじみと感じました。そして学童疎開の経験を持つ大井第一小学校は、その苦しみを知らない人々(生徒や先生は勿論父母にも)に語り継いでゆかなければ、平和の尊さを真に理解されないのではと、この会を行って痛感いたしました。

豊田学寮(男子寮)のいごと

寮母 昭和14年卒 白井 文子
(旧姓・相原)

今回の「集団疎開の地を訪ねる会」企画は、思わぬ冥土の土産になり、感謝の上もありません。

☆ 当番になった日は、午後10時、12時、午前2時、と生徒を起こしてトイレに連れて行くのですが、それでも失敗して、翌日地図を書いた布団を担いで庭に持ち出しました。

☆ 洗濯日には、ドラム缶に洗濯物を入れ、熱湯を入れますとシラミがプクプク浮いてきて、今考えるだけでも鳥肌が立ちます。

☆ 中央線の線路を伝って行けば東京に帰れると言うので、何人か逃げ出したと言う事も聞きました。

☆ 石川先生、神田先生のソフト帽子を戦闘帽に作り変えたところ、結構注文が来ました。63年も前の話ですが、生き字引の仲間入りですネ。

☆ 昭和20年になってからは、昼も夜も空襲があり、睡眠不足でフラフラになりました。夜といっても何時空襲で逃げなければならぬので、着たまま、防空頭巾もかぶったままで寝ました。早くどうにかならないかと思っていましたので、敗戦(終戦ではない)になった時、何年振りかで電気をまともに見る事が出来、こんなにも明るいものかと思いました。

『同期会・クラス会だより』

昭和14年卒同期会

昭和14年卒 津田 照通

私たちは毎年同期会を開催しています。今回は11月15日、J.R.田町駅のすぐ脇「ニユートキーヨー」に集まりました。年毎に参加者が減るのは淋しいことですが、82才のおじいさん、おばあさんが21名、遠くは札幌から毎年参加

されるAさん、熊谷のYさん等々。3時間をオーバーしても思いい話は尽きませんでした。

昭和15年卒松組クラス会

昭和15年卒 宮内 邦夫

大正15年12月25日、大正天皇が崩御され、次の年号制定に当っては経余曲折もあったそうだが、「昭和」の年号が決定された。従って昭和元年は僅か7日間で終り、翌年は昭和2年になった。私達の同級生の多くは昭和2年生まれで、激動の時代を生き続けて来た者たちである。

満州事変、上海事変、2・26事件、日中戦争、そして大平洋戦争の渦中に巻き込まれた軍国主事華やかな時代だったので、陸・海・空の学校に進んだ者もいる。B29の空襲で焼け野原になった街で屍体を乗り越え生死の境を彷徨った者もいる。だからそんな思い出話から発展して話に花が咲く。

そんな同級生も今や80才を過ぎたが、まだ老人になったと云う実感が湧いて来ない。「来年は修学旅行に行つた伊勢、奈良、京都でも歩こうか？」などの話が出たこともある。しかし私達は毎年鹿嶋神社の例大祭の日をクラス会の日と定めている。そして私達の合言葉は「最後の一人になるまで大井第一小学校の想い出と共に生きよう。」である。

昭和16年卒同期会

昭和16年卒 若狭 泰子

私達は平成20年5月14日、品川パシフィックホテル3階の「ピコロモンド」で同期会を開催しました。出席者34名。80才になったので「今回を最後の会にしましょう」と発言したところ、これからは毎年開きたいと云う希望が多く、結局毎年開くことになりました。今年5月20日(水)同じ「ピコロモンド」で開催します。但しここはバイキング形式で、高齢者は料理を取りに行くのが大変なので、何か良い方法がないか交渉することになっています。

昭和24年卒同期会から

昭和24年卒 渡辺 功

平成20年10月19日、「竹むら」に26名が集まりました。当日は、鹿島神社の祭礼で懐かしさもひとしお、さらに母校のホームカミングデーとして、学校が同窓生に広く開放して下さいました。集合時刻まで、それぞれに予定を立てて、思い思いに訪ね歩いた様です。童心に帰って、楽しいひとときを持つことが出来たことは、明日への生きる力が与えられたことでしょう。

二年前になりますが、文集「ヒマラヤ杉」の完成と古希を祝って、横浜・ランドマークタワー「四季亭」に31名が集まりました。今回も用事があって参加出来ない方を除いて、殆ど同じ顔ぶれで、お

互いに無事を喜び合いました。いつも乍らですが、ここに来るとあつと言う間に昔にタイムスリップして、遠慮なく話し合えることが嬉しいことです。

時間にもゆとりがあり、遠くアメリカ・ミズーリから参加したモリス(浜田)恵美子さんをはじめ、久々に出席した藤田信義君など昔を思い出し乍ら、存分に楽しい話を聞かせて呉れました。その一部をご紹介すると、「梶原邦光先生に向かつてバカと言った生徒の話」は、拍手喝采を浴びました。男女を問わず、額を指で押すお仕置きは、広く知られていますが、その先生に向かつてバカと言ったとのこと。余り広く知られていませんでしたが、近くに居た女子生徒は、よくぞーと思ったそうです。

また「男子生徒の長居に困った母親の話」は、皆で大笑をしました。女子生徒宅に、3名の男子生徒が何やかやと訪ねて長居をすることがあったそうです。彼等が帰った後の玄関の蔭に、頬被りをした箒が立て掛けてあるのが見つかったとのこと。娘に虫がつかない様にとの親心でしょうか。幼馴染みとの話は、はてしなく続きます。

祝賀会

昭和33年卒 6年月組
ダルマ会 堀澤 末治

平成20年6月13日(金)午後7時より
場所 竹むら
参加者 女性4人 男性14人
欠席5人

久しぶり、急にしては、参加者多数と言っている。ダルマ会会長（木村先生）の急逝以来、明るいニュースでの集合です。大場幸徳君（5丁目ガラス店）が、春の叙勲で藍綬褒章授与が新聞紙上で報道され、即、祝賀会開催が決定。

祝賀会は持参の、表彰状、メダル授与と、花東贈呈、乾杯、拍手喝采と歓声と、ここまでは式典らしかったのに、一瞬にして、うるさい！しずかにしろガキども！品よくしろ！大場が主役だぞ！言ってもダメ、これじゃあ50数年前の休み時間の教室だよ。しかし良くもまあここまでではしゃげるものだ。个性的というか、変わったヤツばかりなのについて会ってもどうしようもない仲のいいガキだ。見るだけでも楽しい、一緒にいるだけでおもしろい、嬉しい、実感かな！

帰りの電車の中で、還3歳になった我々が、何歳まで仲良しがきになれるのかと、考えたり、思い出し笑いをしたり、今日のみんなの顔を思い返したりして、相変わらずみんな変わらねえなああと、一人ごとを言いながら足取り軽く帰宅。

6月14日 午前0時20分

6年梅組クラス会

昭和38年卒 田辺由美子
(旧姓・田部)

ホームカミングデーが開催されると会報で知り、是非この日に、クラス会

を持つと思いました。というのも、昭和38年卒梅組のクラス会はこのところ毎年開かれており、『東海道品川宿を歩く』、『大井競馬場でトウインクル競馬』、『ゆりかもめと日本科学未来館見学・東京湾クルージング』、と毎回内容豊富な企画となっております。担任である守田先生も必ず出席して下さいます。これを引き継いだ幹事としては、どうしたものかと頭を悩ませていた矢先に届いた会報でした。早速幹事3名で相談し、先生にもお話し、『母校訪問と品川歴史館見学、鹿嶋神社参拝』のスケジュールでクラス会を開催することにしました。

当日は秋晴れの下、本当に久しぶりに大井第一の門をくぐりました。校舎はすっかり変わってしまい、校庭もずいぶんとイメージが違っていました。が、多目的ルームには、卒業当時の文集や新聞、昔の写真や資料などが置かれ、すつと45年前にタイムスリップしました。文集にお互いの作文を見つたり、当時のエピソードを語り合ったり、卒業生特集号の新聞に掲載されたクラス全員の一言には、未来に向かつて大きな夢を描いた言葉が並び、純粋だったあの頃に思いを馳せます。様々な再会もあり思い出話は尽きませんでした。

このあと訪れた品川歴史館では、『東京湾と品川』という企画展も行われていました。鹿嶋神社の祭礼ということもあり、歴史館の前ではお神輿の担ぎ上げにも出会い、神社ではお神楽が奉納されていて、多くの人で賑わっ

ていました。クラス会の仕上げは大井町の居酒屋さん。ここからの参加も含め総勢12名。守田先生やお互いの健康を祈念して乾杯し、談笑の時を持ちました。

母校の教室を開放し、このような楽しい再会の場所を提供して下さった同窓会幹事の方々始め関係者の皆様に感謝いたします。

昭和42年卒同期会の記録

昭和42年卒 石井 修



こじんまりとした規模ではあったものの、我々幹事の気持としては大盛会であり、やって良かったと総括できる内容であった。先ず一次会である

が、会場は母校2階の図書室である。参加者は、立元敏雄先生と山崎正子先生、および旧生徒22名の24名。僕のご案内ミスで立元先生に先立つ小一時間前の3時には早々に山崎先生が会場入りされ、一瞬手違いに戸惑ったものの、結果的に予定外ながら急遽先生よりお話を賜わり（さすが大ベテランの先生です）、そうこうしている内に立元先生が入場され予定の講演となり、その後、一部参加者の近況報告（過半数

の近況報告は二次会で実施）も交えながら雑談、記念撮影となり、あつという間に一次会散会の時間5時を迎えた。正門前で残念ながら山崎先生とは暇乞いをし、大方の一次会参加者は立元先生を囲みながら二次会の会場である鹿嶋神社はす向いの「藍屋」まで歩いて移動した。二次会の規模は、立元先生および旧生徒28名の29名。今度は、畳敷きの部屋で、当初は壁に沿って和式テーブルが四面に亘って囲む設定であったが、自由に移動してお互いに混ざり合えてこそ同期会の醍醐味なので、早々に一部テーブル位置を変更し、積み残しの近況報告も交えながら、先生も旧生徒も活発に座席を移動して大いに飲み、大いに語り、誰だか一次会では分からなかったひとの正体を確認したりで結果は大いに盛り上がった。記録として、補足すれば、大山君が会の初めに乾杯の音頭をとり、中締めは立元先生の音頭で三本締め。先生には、記念品として気持ちばかりのものであったが折り畳み傘（傘寿のお祝い）を贈呈。まあ、ここまでが公式行事であったが、次は三次会。一旦、JR大井町駅方面へタクシーで帰られた筈の立元先生が大森駅の東口方面の居酒屋で催した三次会にもなんと途中から復帰されたりで、なんだかんだ25名位が流れ集合した。先生が随分間こし召されたくなるかと個人的には少し心配したが、ご機嫌にいい酒を楽しまれているといった感じであった。三次会での特記事項は、小学校の先生とはほど遠く寧ろイージーライダーのような黒衣着

衣と雰囲気の平吹君が途中からジョインしたことであった。次回は是非今回出席されなかった多くの面々にも参加を切望して止まない(よろしく)。

四三会の歩み

昭和43年卒 阿部 淳子 (旧姓・小山)

四三会は、昭和四十三年に卒業した生徒の学年会です。私が在籍した六年月組の担任は川崎二郎先生。卒業後も、クラス会を重ね、十年程経った頃、他のクラスの友人たちが参加するようになりまし。[学年会にしたら:]と仰ったのは、川崎先生。私たちの学年は1クラス40人松竹梅雪月花の6クラス、二四〇人。皆が集まれば、楽しい会になりそうでワクワクする一方、大変だなあとも思ったものです。

昭和五十六年(一九八一)九月、第一回の集まりの案内を出すと共に、学年会の名称を募集。「大桐会」など大井第一小学校のシンボルとも言える、桐、を含む名称が多くなか、選ばれたのは「四三会」。川崎先生は、「黄泉の国へ行って、みな会えるように」という思いから、決められたのでした。翌年には、当時の各クラスの先生方にもお越し頂き、第二回四三会を大井町で開催することが出来ました。

その後、各クラスでお願いしていた幹事さん達もお仕事などで忙しくなられ、私も、引越されたりする方々の行方を追いきれず、会を開くのが辛

くなっています。そろそろ四三会をやらねば、という焦る気持ちだけが空回り。そんな時、飛び込んできたのが、川崎先生の計報。驚くやら悲しいやら。89年の春のことです。

きちんと会を開けなかつた罪悪感に駆られ、全力を傾け、学友の行方を探索。秋にはまた、当時の担任以外の先生方もお招きして、総勢60人ほどの四三会を開くに至りました。

それからは、毎年11月第3土曜に開催。同じクラスになったことも、口を利いたこともなかつた友に助けられ、20年になろうとしています。まだ出席されたことがない方、恐る恐るの参加でも、直ぐに40年のブランクは埋まりますよ。お待ちしています。

編集部より

昭和43年卒の卒業製作のタイトル作品が行方不明です。15センチ角ほどのタイトル、各自画像を削って焼きつけた物で、茶色と濃い緑のタイトルが24枚額に入っていました。初めは体育館の横、その後靴箱の上に飾ってありました。ご存知の方は事務局までお知らせ下さい。

『クラス会便り・通信欄より』

○いつもお世話様になりありがとうございます。H20年にもS15年卒梅組のクラス会が開かれることを楽しみに致しております。同窓生の皆様、先生方、生徒の皆様が今後もそれぞれ生き生きと過ごされますことを念じ

ております。

(S15年梅卒 中原 紀子)

○いつもお世話様です。4月3日、旧六松のミニクラス会で鎌倉に行きハイキングと桜を楽しみました。

(S30年松卒 高野 路子)

○昭和32年卒の同期会を、08年4月20日に開催致しました。20名程ですが、満開の桜に負けず、おしゃべりに花を咲かせたく思っております。

(S32年雪卒 新田 好恵)

○四三会として毎年のように同窓会を19年間続けていますヨ!!今参加できなくてもいつか出席してくれる方が増えることを願っています。幹事に協力的な学年で暖かい、ほのほのした会です。毎年やっていますので、参加できたらいらして下さい!!待っています。

(S43年松卒 橋本 和美)

『振替用紙の通信欄より』

○大正十五年三月の校庭の全校生徒の光景は壮観だと思いました。特に生徒の立ち姿は整然として気品さえ感じました。大井第一は昔から優秀校だったのだと自負しました。先生も生徒もがんばって下さい。

(S11年雪卒 磯邊 澄子)

○「故郷は遠くにありて思うもの」そのものずばりの心境で、学校園、プール、鹿嶋神社、大森貝塚を想います。未だ新校舎の2階から海が見え、潜水艦を見たこともありました。

(S18年月卒 菅野 義信)

○鹿嶋神社例大祭にホームカミングデーというのは良いアイデアだと思えます。同期生に呼びかけてみます。

(S28年松卒 下田 孝)

○岡田一郎様の文「校長先生を偲びて」、思い出深く読ませて頂きました。私は葛生先生のとき入学し、中山先生の時卒業しています。入学式で「葛生庄一郎先生です」と紹介があり、前の方の男子が小さな声で「くずやおはらい」と口にしたのを覚えています。そういえばあの頃はそんな職業もありました。パナマ帽にステッキで遠足の引率をされた記憶しています。

(S32年松卒 古川 瑛子)

○いつも会報を送って頂き、ありがとうございます。会報作成、発送と大変なお仕事を毎日して頂き、感謝致します。(S59年竹卒 大高美智子)

『平成20年度子供達の活躍』

1 平成20年8月 6年生女子

全国水泳競技大会
女子200メートルメドレーリレー
第一位

女子200メートルリレー
第二位

2 平成20年10月 6年生

第59回 連合体育大会

(1)男子走り幅跳び 第一位

(2)男子400メートルリレー 第一位

(3)女子100メートル走 第三位

(4)女子走り幅跳び 第三位

『平成20年度の教職員移動』

I 転出

副校長 伊佐 玲子先生
 (品川区立御殿山小学校へ)
 主 幹 早見 泰一先生
 (品川区立京陽小学校へ)

副校長に昇任

教 諭 塩谷 牧子先生
 (渋谷区立広尾小学校へ)
 教 諭 佐藤 純子先生
 (大田区立相生小学校へ)

教 諭 村尾 裕子先生
 (品川区立京陽小学校へ)
 教 諭 今井 信明先生
 (狛江市立狛江第三小学校へ)

II 休職

教 諭 安藤 洋子先生
 (青年海外協力隊 パラオへ)

投稿のお願い

「文字」にして残しておきたい思い
 出等、随時投稿をお待ちしています。
 10月30日までに、郵便、Eメールで、
 森宛にお送り下さい。

第7回定時総会のお知らせ

日時 平成21年5月23日(土) 午後1時
 場所 大井第一小学校
 1、事業報告及び収支決算の承認
 2、事業計画及び収支予算の承認
 3、役員改選の承認
 4、その他本会の運営上特に重要な事
 項。同封の振り込み用紙内の通信欄

にて出欠席のご返事をお待ちして
 ます。

2007年度 収支計算書
 (平成19年4月1日～平成20年3月31日現在)

項 目	金 額	項 目	金 額
(収入の部)	円	旅費(事)	0
会費収入	583,000	通信運搬費(事)	22,380
入会金収入	41,100	事業費雑費	40,000
記念誌等販売収入	105,100	事業費計	274,775
寄付金収入	0	[管理費]	円
雑収入	4,524	会議費(管)	2,200
①当期収入計	733,724	旅費(管)	1,220
前期繰越収支額	3,640,651	通信運搬費(管)	22,240
②収入計	4,374,375	事務用品代	13,262
(支出の部)	円	振替手数料	32,260
[事業費]		管理費雑費	0
総会開催費	400	管理費計	71,182
会報出版費	187,481	③当期支出計	345,957
名簿管理費	4,974	当期収支差額①-③	387,767
会議費(事)	19,540	次期繰越収支差額②-③	4,028,418

会費納入のお願い

同窓会事業を継続していくには、会
 報等の印刷代、通信費、事務費、母校
 に関わる慶弔費等の諸費用がかかります。
 平成19年の会費納入者は約八八〇
 名で約七〇〇〇名に第10号会報を送る
 ことができました。これからも安定し
 た同窓会活動を続けていくために、会
 費納入に皆様のご理解とご賛同を心よ
 りお願い申し上げます。

一口 一〇〇〇円

同封の振込用紙をご利用頂き、五月
 末までにお振り込み下さい。

名簿の資料提供にご協力を!!

(新住所・改姓名をお知らせください)
 会報を通じ、より大きく同窓の輪が

広がることを願い、正確で充実した資
 料づくりを目指していますが、毎年、
 相当な数の宛先不明の会報が戻ってき
 ます。

名簿委員会では、会報をお送りする
 ために、「個人情報保護法」に則り、
 同窓会員の皆様の自宅住所・電話番号
 の個人データを厳重に管理し、保持し
 ています。転勤、結婚、転居などによ
 り変更となる場合には、事務局までお
 知らせください。

物故者

松本幸三郎先生 昭和28年～38年
 佐藤 富子先生
 志村 次男先生 昭和25年～36年
 謹んで、ご冥福をお祈りいたします。

同窓会の運営に理事として

ご協力下さい。

お蔭様で同窓会の運営も徐々に向上
 し、各種事業も充実して参りました。
 然し現在の理事会は構成員も少なく、
 今後、より強力な体制を整えるには多
 くの方々のご協力をお願いしなければ
 なりません。特に広報関係ではホーム
 ページの立上げが必須条件であり、I
 T関係に詳しい方々のご参加を願って
 居ります。

因に、定例の理事会は通常3ヶ月毎
 (2月、5月、8月、11月の第2金曜日
 の午後7時から)ですが、この間各種
 委員会が必要に応じ開催されています。

編集後記

今回は予想外に多くの原稿が寄せられ
 嬉しい悲鳴を上げました。紙面が限られ
 ていますので、寄稿された方々には真に
 申し訳ありませんでしたが、削除したり
 して何とかまとめることが出来ました。
 初めて開催された「ホームカミングデー」
 や戦争中の「学童集団疎開」にまつわる
 記事も掲載することが出来ましてホッと
 しています。これからも思い出深い記事
 をお寄せ下さるようお願い申し上げます。

同窓会事務局

全ての連絡事項は左記宛にお願い
 します。

森 秀雄
 〒一四〇〇一〇一四
 東京都品川区大井一―五三―九
 TEL〇三―三七七三―〇五〇六
 Eメール: hide@mori-shoukai.co.jp
 〒一四〇〇一〇一四
 東京都品川区大井六―一―三二
 品川区立大井第一小学校
 TEL〇三―三七七三―一五二四〇
<http://www1.cts.ne.jp/oiichi/>

編集委員

昭和12年卒 山崎 浩子 (野原)
 昭和13年卒 松崎 滯子
 昭和21年卒 白旗 洋子 (池田)
 昭和30年卒 木村 親光
 昭和34年卒 森 秀雄
 昭和35年卒 上野 良子
 昭和42年卒 井上 幸子 (山崎)
 昭和49年卒 三戸 美子 (山口)